

幕あい

横浜演劇鑑賞協会

第329回観劇会

2025年7月1日



Studio Life 公演

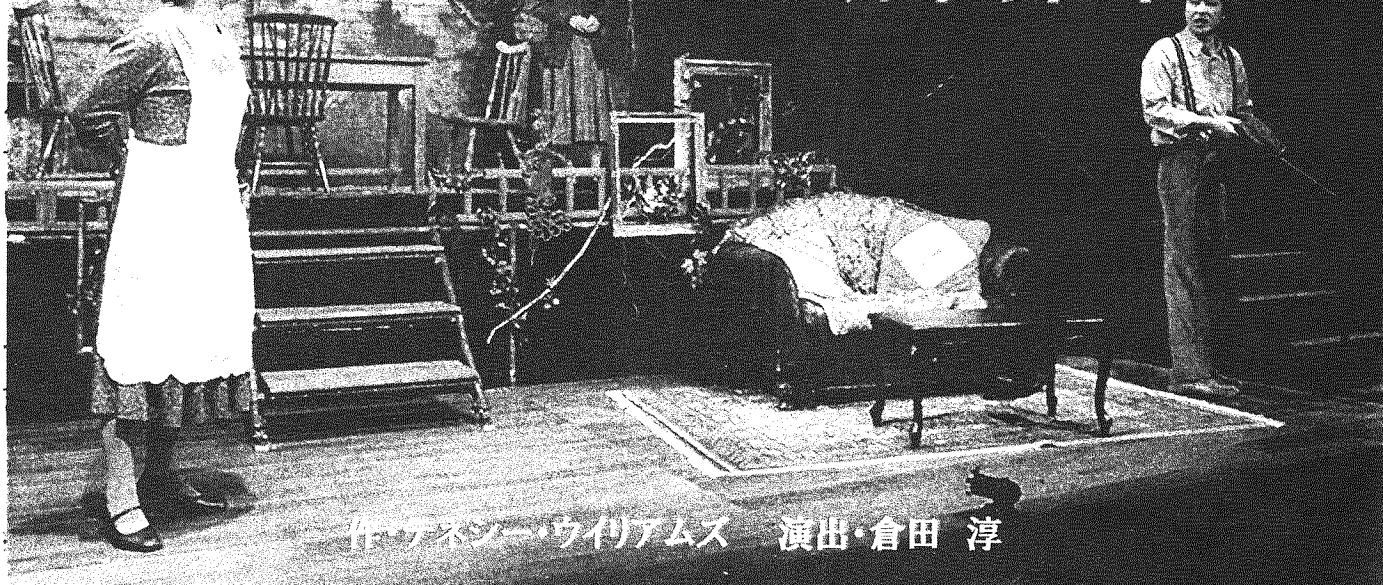
作・テネシー・ウィリアムズ

演出・倉田 淳

第329回観劇会

Studio Life

ガラスの動物園



作・アネシー・ウリアムズ 演出・倉田 淳

観劇日・7月1日(火)開演13時30分・18時30分

1日昼の部終演後に出演者との客席交流会が開催されます。参加希望の方はそのままお残りください。

7月2日(水)開演13時

* 上演時間は2時間30分(途中休憩10分含む)

会場・県民共済みらいホール

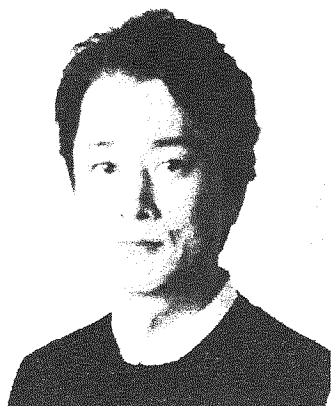
あらすじ

1930年の不況時代、アメリカ、セントルイスの裏町にあるアパートに暮らすウィングフィールド家の物語。登場人物は4人、語り手となるトム、その姉のローラ、母親のアマンダ、そして靴倉庫で働くトムの同僚のジム。

トムは貧しく息の詰まるような現状からの逃亡を夢見ている。かつて父親が突然の出奔をしたように… 姉のローラは少女時代に罹った病の後遺症で少し足を引きずっている。

そのことが彼女を内気にして人との交流を拒むようにガラス細工の動物たちに囲まれて暮らしている。母のアマンダは南部で過ごしていた裕福な少女時代の思い出から離れられずにいる。目下のアマンダの最大の悩みはローラの結婚のこと。働きにも行けず内に籠ったローラの将来を案じて結婚相手を切望し、トムに若い紳士を紹介して欲しいと頼みつづけていた。そして或る夜、春雷と共にトムは一人の青年を連れてくる。靴倉庫で働く同僚のジム・オコナーだ。トムは知る由もなかったが、彼はローラがハイスクール時代に憧れていた学園のスターだった…。

出演者紹介



榎原秀佳

アマンダ・ウィングフィールド



吉成奨人

ローラ・ウィングフィールド



奥田努

トム・ウィングフィールド

ジム・オコナー役 鈴木翔音さんからのメッセージが届きました。



はじめまして。劇団スタジオライフの鈴木翔音（スズキ ショオン）と申します。

『ガラスの動物園』はスタジオライフ 40 周年の特別な節目での公演です。

物語はトムの追憶の世界。

情緒的な世界観に、スタジオライフの持ち味でもある会話で生まれる感情の機微。心情を投影するような繊細な美術等。

必ずや皆様に楽しんでいただけると確信しております。

そして私事です。横浜は僕の出身地で大好きな街です。

だからこそ、最高のお芝居をお届けしたいと思っております。

追憶の世界でお会いできる日を心待ちにしております！



担当サークルのまとめ会にご参加ください！

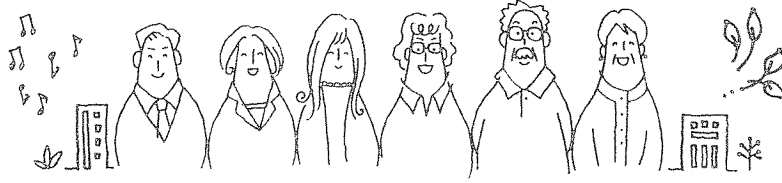
○会場でいただいたアンケート用紙の整理を行います。

○舞台の感想と、運営に関して気がついた事などを交流します。

7月8日(火)10時30分・18時30分 事務局

サークル懇談会が開催されました

6月3日～7日で4回の開催に46名の会員の参加がありました
参加者の自己紹介に続いて、今年度の観劇作品の感想を交流しました。



今年度の観劇会について運営委員会から次のような報告がありました。

1. 文学座「五十四の瞳」とNLT「OGⅡ」は上演料が高額なので大きな会場で1日行うしかなかった。
2. なるべく1ステージの上演料の負担の軽い安価な作品を小さな会場を確保して実現することにした。
小さな会場で複数ステージを実施すれば夜の観劇日も設定できる。「はんなり☆浜語り」「ひとごろし」「おシャシャのシャン」。2ステージだったが「カラオケマン」と1年間で6回の観劇会を実現した。
3. その観劇会の評価、感想をアンケートから探してみると、小さい劇場での作品に対する評価は高く、会員に受け入れられた舞台を実現できた。
4. 今後も小さな会場での複数観劇会の実現に努めるが、会場を確保するのが難しいケースが多く苦勞している。
5. 会員数の減少傾向は観劇条件を継続していく事を困難にしているので、対応策として年間の観劇本数を減らすか、会費額を上げるかという選択が迫られている。

*この提案には「会費の値上げは避けて欲しい」「観劇会の本数を6→5本に減らす方が良い。仕方ない。」という意見が出ました。今度の総会で決めていく事になります。

参加者から出てきた意見⇒●コロナ禍が収まり、出演者との交流が復活したのが嬉しい、事前にお話を聞けることで観劇作品への期待が高まった。

●新入会員の拡大に努力しているが対象者がいない。声を掛けても反応が鈍い。高齢化が原因である。若い人は忙しくさらに難しい。

会員さんの観劇の機会が広がります！ *利用してください

相模原演劇鑑賞会の観劇会に無料で参加できるようになりました。

トムプロジェクト公演 「鬼灯町鬼灯通り三丁目」

9月9日（火）開演18時（予）

会場・相模原南市民ホール（最寄り駅・小田急相模大野駅）

作・演出/東憲司（栈敷童子）

出演/音無美紀子・有森也実・浅井伸治・森川由樹

*横浜でも実現を検討していた見ごたえのある作品です。戦争の傷口の痛さと可笑しさを描いた弾む舞台です。

お申し込みは事務局まで。参加者を相模原に事前に連絡します。



この人を訪ねる 5 木村美菜さん

10 年ほど前はおやこや家族でサークルを作って一緒に観劇会場に集う姿を見かけたが、最近は探してもわずかで 10 サークルほどが数えられる程度になってしまった。

1991 年生まれの木村美菜さんは 2 歳の時に「おやこ劇場」に入会して母親の膝の上で座って観たのが観劇初体験だという。おやこ劇場を経て横浜演劇鑑賞協会に入会したのは 1999 年、テアトルエコー公演の「ら抜き殺意」8 歳の時。兄は 13 歳で姉は 11 歳で仲良く親子で楽しく観劇を続けてきている。『すべて母の影響です』と言っているが、観劇を続けているのは『演劇が好き』だからと言い切る。そして、今日も母娘二人で仲良く小劇場の芝居を観に東京に出かけて行った。こうして休日を利用して月に 4 から 5 本の観劇に足を運んでいるという。母と娘で観劇通いの日々を続けている姿は珍しく、うらやましい貴重な体験である。

2003 年、中学生の時に赤レンガ倉庫で迎えた観劇会「みすゞ凛々」が良かった。

「マウストラップ」「酒坊ちゃん」「兄妹どんぶり」「カラフト伯父さん」「煙が目にしみる」など楽しく観た作品が次々と飛び出してきた。鑑賞会が主催した交流会にも参加して「酒坊ちゃん」では出演者との交流会の後のカラオケにも一緒に連れて行ってもらった。その時に吉田羊さんがカラオケで「地上の星」を唄うのを聞いたという貴重な体験は 15 歳の高校生の時だ。

隣の写真は姉の 2008 年、「アルジャーノンに花束を」の主演平田広明さんとの交流会、17 歳の時の記念写真。

この頃になると観劇への興味は「裏方」へと広がって『演劇の裏方をやってみたい』と思うようになっていった。交流会で親しくなった演劇制作に携わる上谷忠さんが主宰する「J・C L I P」という演劇制作会社で働く事になっ

て高校卒業と同時に念願の「裏方業」に就職できた。「赤坂レッドシアター」という劇場の会場運営。チケットの集票。プロデュースした舞台の稽古場や劇場押さえ、俳優のスケジュール管理と想像以上のハードな実務が待っていた。徹夜や最終電車

での帰宅になる日も続いて、体力の限界を覚えて 3 年で辞めることになった。今は人材派遣会社の仕事についているので定時に帰れるのだが、休暇は思うように取れず、2 月の「O・G II」も見逃してしまった。働いている人は自分の時間が持たなくなっていて、自由な時間は自分の興味ある事に使っているので、観劇にはなかなか時間を使えないという。現在の若者事情が苦々しく語られる。

演劇鑑賞協会の現在の会員の構成年齢は 70 代が中心。この世代の青春時代はサークル活動が活発で、横浜演劇鑑賞協会でも夏はキャンプ、冬はスキーと仲間が集ってリレーション活動を活発に行っていたが、もはやファイヤーを囲んでフォークダンスや輪を作ってフォークソングを合唱するといった風景は遠くかなたのものとなってしまった。演劇鑑賞協会の歴史をみると若者像が驚くほど大きく変貌している事に気づかされる。

中島みゆきの「時代」ではないが「そんな時代もあったねと・・・あんな時代もあったねときっと笑って話せるわ だから今日はくよくよしないで今日の風に吹かれましょう」

広報部・中山

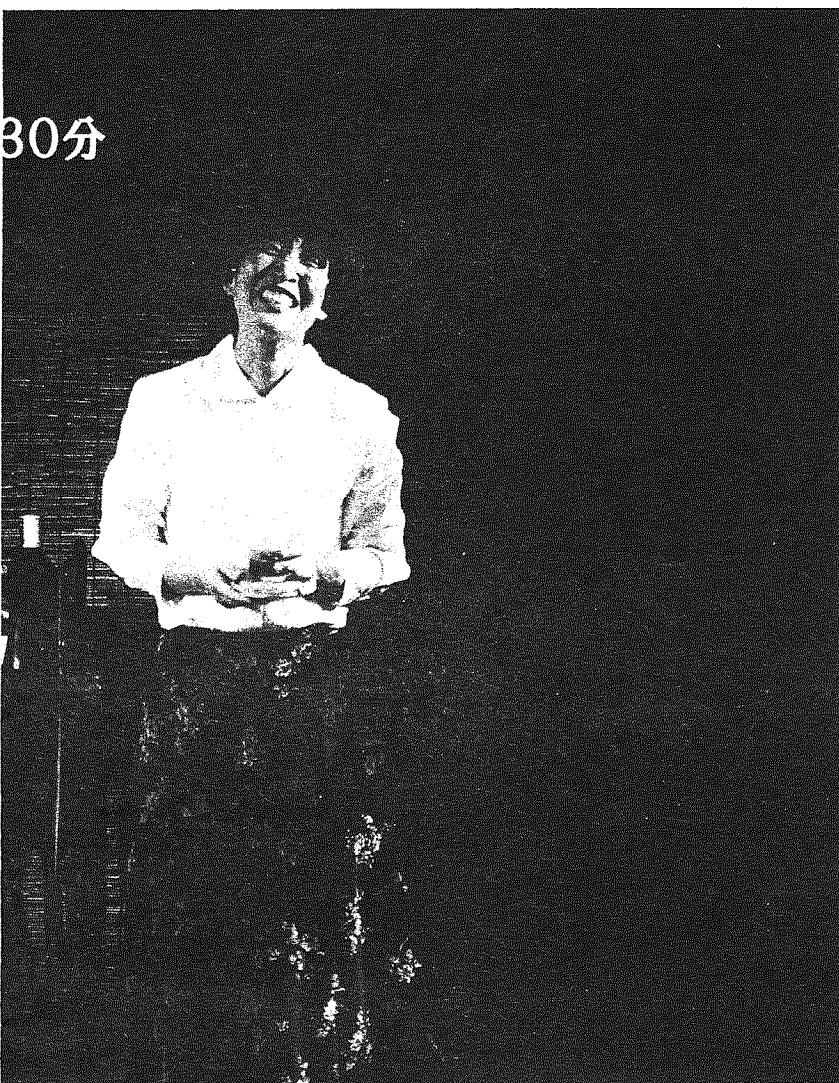


の女

渋谷はるか・一人芝居

at Woman

演出・日澤雄介(劇団チョコレートケーキ)



30分

担当サークルの皆さんへ

今後の予定です！

会場・事務局です

7月23日(水)座席割振り作業

10時30分～午前中

9月24日(水)前日作業

10時30分～午前中

9月24日(水)搬入作業

9時から県民共済みらいホール

1時間ほど

10月3日(金)まとめ会

10時30分～午前中

18時30分から1時間ほど

*アンケートの整理を行います。

からメッセージをいただきました。

り普通のお芝居とは違い、やや特殊なものです。

とても思い出のある作品です。

せん。私は弘子という女性が、

語を書くに至りました。弘子の人生が、

古川健



鶴見区の汐田病院で誕生した渋谷はるかさんは
生粋のハマッ子！

子育てのお忙しい時間を割いて6月24日の「担
当打合せの集い」に参加してくださいました。

一人芝居「其の女」という作品ができ上がるまでの
いきさつなど、作品の魅力についてたっぷりお話し
ていただきました。参加者は24名でした。



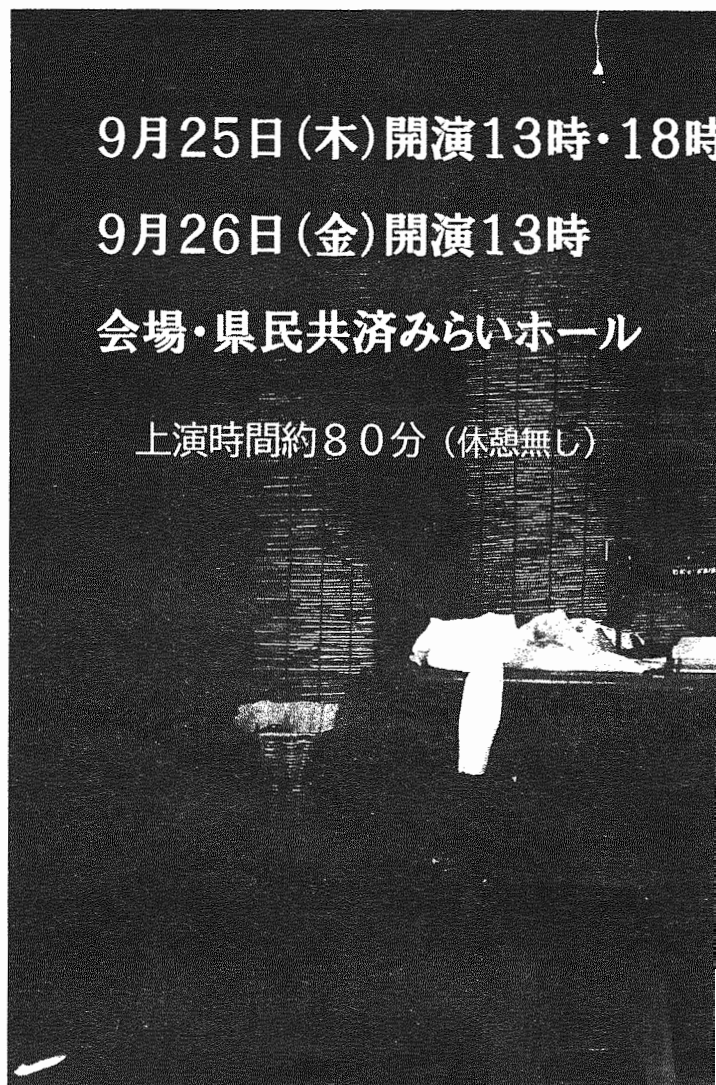
脚本・古川健(劇団チョコレートケーキ)

9月25日(木)開演13時・18時

9月26日(金)開演13時

会場・県民共済みらいホール

上演時間約80分(休憩無し)



作者・古川健(たけし)氏・＜劇団チョコレートケーキ＞

一人芝居という表現形式は、「芝居」とはついているものの、やはりそういう意味で、「其の女」は私の書いた唯一の一人芝居であり、しかしながら、物語に込められた「想い」の切実さには差はありません。その人生で抱える数多の「想い」を舞台上に現出させたくてこの作品を観た人の心を動かしてくれると信じております。

「おシャシャのシャン」

担当運営委員のまとめ

二月四日に「担当打合せ会議」がありました。その時に脚本家の坂口理さんと女優の坂東七笑さんがいらして、「おシャシャのシャン」の話を聞かせていただき、そのお話に引き込まれ、舞台に期待を膨らませました。

三月一九日に座席割り作業を行いました。三月二一日に前日作業でしたが、員数も減ってあつという間に一時で終了しました。

五月二八日、「まとめ会」。アンケートの集計をしました。出席した担会員と運営委員は打ち合わせの時比べて出席者は随分少なかったですが、そこでは観劇した後の余韻がまだまだ残っていました。

大鹿村まで長い時間をかけて足をした人達が村で見た歌舞伎のすばしさを話してくれて盛り上がりました。カーテンコール「おシャシャシャン」は出演者と会員が本当に一つになって盛り上がりましたね。

担当運営委員・カトレアB

後藤扶美代

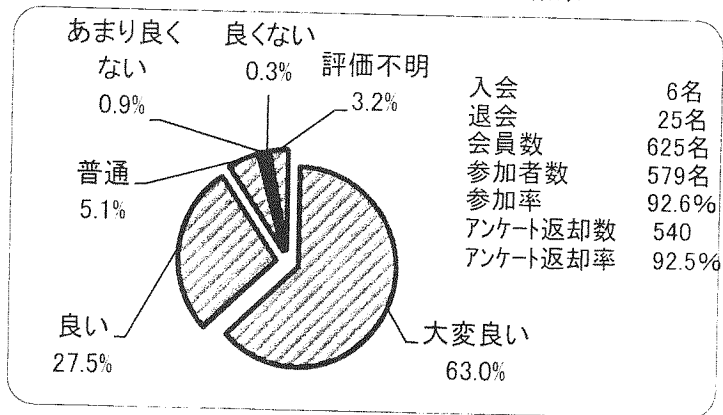


手芸部からの眼鏡ケースや担当サークルからのメッセージカードをかざして笑顔の平岡遥奈さん



「おシャシャのシャン」アンケート結果

評価	%
大変良い	63
良い	27.5
普通	5.1
あまり良くない	0.9
良くない	0.3
評価不明	3.2
	100



旅の一行と出迎えてくれた大鹿村の村長さん（前列左）宿泊先のご主人でした。

杉崎・記

「舞台となった大鹿村」を訪ねる。
ゴールデンウィークのさなか五月三日春の季節に一日だけの村民による歌舞伎。四日にはだるま座「おシャシャのシャン」観劇の為、長野県下伊那郡大鹿村に行ってきました。大鹿村は南アルプスの山々に囲まれた閑静な山村です。
その大鹿村に二五〇年以上続く伝統の大鹿歌舞伎観劇の為に内外から多くの人が集まりました。上演演目は「傾城阿波鳴門巡礼歌の段」と「菅原伝授手習鑑・寺子屋の段」でした。二題とも人情悲話で感動的でした。「おシャシャのシャン」は地元大鹿村上演という事で、脚本にアレンジが加えられて役者と観客が一体となって泣き、笑いの素晴らしい舞台でした。

たるま座公演

「おシャシャのシャン」

「心に残った台詞」「シーン」

- ▼見栄と口上
- ▼「シャンシャンシャン、おシャシャのシャン」の手拍子。
- ▼「神様が見守ってくれている」
- ▼「I love youより I need?? you」すてきでした。
- ▼「口上」がとてもよかった。
- ▼サトザキさん、緑のスーツのタチバナさんが亀さんを本気でしかる。これは人生にも必要と思いました。
- ▼昭和一八年へのタイムスリップとの共有場面。村芝居の続いていたことをコロナとうまく取り合わせていた。
- ▼「知らざー言って聞かせやしょー」
- ▼最後のおシャシャのシャンの踊り。
- ▼「私がやる！」女性の私が歌舞伎をやる。
- ▼「尻尾と尻尾」
- ▼「神様はきつという」
- ▼ともよとマネージャーが亀之助に気持ちをつづけるシーン。
- ▼最後会場がひとつになって「おシャシャのシャンの手拍子ができたのも

良かった。

- ▼二五〇年間村歌舞伎をつなげている事。
- ▼「神様が見ている」「逃げるな」

代々続いてきたことを様々な演出の工夫で感じさせてくれたこと。

- ▼「俺はこの舞台に立ちたいんだー」
- ▼亀之助の決意。
- ▼客席からの出入りなど楽しかったです。

▼最後の賑やかなステージ。

▼亀之助さんの見栄を切るシーン。

- ▼最後の手拍子。いいですね！元氣になりました。
- ▼「聞かせやしょう」

▼「楽しい時も苦しいときもあるが、いつも神様がいる。」

▼「あんたは逃げんのか！」

▼二つの世界の線が交わるシーン。

▼（弟と兄が間違えちゃうシーン）が演出などとても印象的でした。

▼神様にささげる舞台だ。

▼女性だけの舞台を決意する場面。

▼戦時中の人々が言ったセリフを現代の人々も言っているシーン。江戸時代、戦時中、そして現代、それぞれの

役設定も細かく違和感がなくきちんと時代分けがされていた。そのおかげで同じをいっているシーンが心に残るものになったと感じた。

るものになったと感じた。

- ▼戦争の裏に色々あった事を思い出した。
- ▼エクレーアを食べるシーンが好きです。

▼最後のお芝居のシーンかな。

▼「おシャシャのシャン」がたいせつですね。その通りだと思います。

▼戦死の知らせを受けた時の「知らざあ云って聞かせやしょう」には涙がとまりませんでした。

▼残された女性達が歌舞伎を続けようと決心するシーン。

▼二度と赤紙を届けたり、受け取る事がない世の中に。

▼何時もとちがうお芝居でたのしませていただきました。

▼お三味線がとも良かったです。

▼「無理だ」「中止だなあ」「コロナの頃を思い出しました。最後の皆さんのミエ、踊り楽しく拝見しました。笑えた！」神様が

いる！「シャンシャンシャン・オシャシャのシャン」。

▼最後の皆でのりのりだったシーン。楽しかったです。

▼最後の言葉とおどりが良かった。

▼三郎の「知らざあ言って聞かせやしょう」

▼互いの思いやりのシーンが良かった。

▼兄貴と自分を比べるのをやめるシーン。

▼亀之助さん役の方が一番楽しかったです。

▼おもしろい屋号の付け方。

▼大歌舞伎も田舎歌舞伎も同じ・手拍子がこのシャシャンのお開き一番。



「月の海」担当サークル一覧

瀬谷

12	蘭蘭
----	----

栄

32	堀内
----	----

神奈川

24	松ぼっくり
----	-------

南

4	アシナ
7	はじらいの会
26	早川
42	ドラキチ
80	松本
82	未来

旭

26	八つ橋
----	-----

磯子

40	キタロー
75	すばる

港北

14	加藤
----	----

保土ヶ谷

16	やぐるま草
57	和田
67	Oh!
90	ムトー

金沢

2	高橋
84	平安

港南

65	倉重
----	----

中

52	ともしび
98	ターボ

緑

31	カリフラワーピクルス
----	------------

市外

3	佐藤
18	ぴおぴお
44	K&K

西

8	喜楽
11	推理小説FC
50	甲斐

担当サークルスケジュール 会場は事務局 *スケジュールをカレンダーに記入してください。

《担当サークル打合せ》 9月2日(火) 10時30分～ 18時30分～

《座席割作業》 9月17日(水) 10時30分～

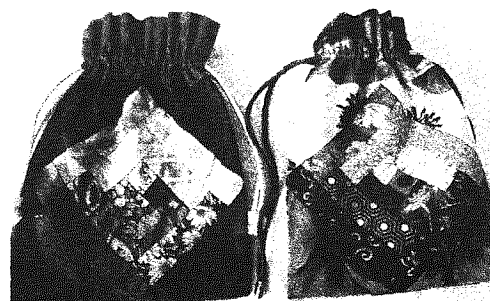
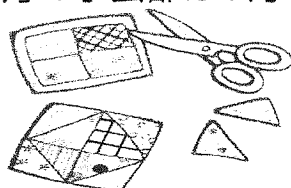
《前日作業》 10月28日(火) 10時30分～

《まとめ会》 11月4日(火) 10時30分～ 18時30分～

手芸部の活動

6月の手芸部では「ガラスの動物園」の出演者に巾着を作成して贈呈しました。

7月の手芸部は7月15日(火)に開催します。



2025年9月～10月スケジュール

9月

2日	火	9月会費受付・「月の海」希望日申込み・「月の海」担当サークル打合せ10時30分・18時30分
3日	水	9月会費受付・「月の海」希望日申込み
5日	金	9月会費受付・「月の海」希望日申込み
6日	土	9月会費受付・「月の海」希望日申込み
17日	水	「月の海」座席割振り作業・10時30分
20日	土	運営委員会
24日	水	「其の女」前日作業
25日	木	「其の女」観劇会・開演13時・18時30分 県民共済みらいホール
26日	金	「其の女」観劇会・開演13時・県民共済みらいホール

1日	水	10月会費受付「月の海」座席シール発行
3日	金	10月会費受付「月の海」座席シール発行・「其の女」まとめ会10時30分・18時30分
4日	土	10月会費受付「月の海」座席シール発行
7日	火	10月会費受付「月の海」座席シール発行
18日	土	運営委員会
21日	火	11月会費受付
22日	水	11月会費受付
24日	金	11月会費受付
25日	土	11月会費受付
28日	火	「月の海」前日作業
29日	水	「月の海」観劇会13時・18時30分 関内ホール小ホール
30日	木	「月の海」観劇会13時・関内ホール小ホール

編集後記

■ゴールデンウィークはあという間に過ぎ、気が付いたら今年も後半。めまぐるしくてどうしましょう。

井田

■五月、だるま座、「おしゃしゃのシャン」の舞台になった。長野県大鹿村の村歌舞伎と「おしゃしゃのシャン」大鹿村公演観劇ツアーに参加しました。青い空と新緑と赤石岳の雪。澄んだ空気の中での公演。心に残る素晴らしい観劇になりました。

と

■運営委員の岩岡さんが自前の椅子を持って舞台上を闊歩している。だるま座最年長俳優。その元氣な雄姿に元氣をもらう。

せ

■久しぶりの県民共済みらいホール。夏の暑さには駅近会場ありがたい！

ち

■色々ありすぎて、結果として天気の話ばかりしている今日この頃。

木耳

■蒸し暑い梅雨の晴れ間にアジサイの花がひとときの安らぎを与えてくれる。

お

■はじめてのことでも何も分からず、とまどう事が多かったのですが、皆様のおかげで終えることができました。ありがとうございました。

吉



発行日 2025年7月1日（火） 横浜演劇鑑賞協会

〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町6-75 関内北原不動産ビル503

TEL 045-227-5535 FAX 045-227-5609 メール yokoentimu@keh.biglobe.ne.jp